

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

西工の伝統と創立時の校憲に基づく「尊敬される職工の育成」に取り組み、大阪の産業界を担うものづくり人材を育成する大阪一の工科高等学校をめざす

- ものづくり教育により、実践力と社会の技術の進展に対応できる力を身に付けさせるための指導を行い、社会で活躍できる生徒を育成する
- 全ての教育活動において、チャレンジ精神と協働性を醸成する指導を行い、様々な課題を発見し、解決できる力を持つ生徒を育成する
- 実践的技能養成重点校として、資格、検定、コンテスト、競技会、企業等との連携など様々な活動に取り組み、意欲ある生徒を育成する

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校

- (1) 社会人として必要な力を身につけ、生涯にわたって学び続ける意欲と姿勢を涵養するため、基礎・基本の学力を定着させるとともに、専門分野の技術・技能の育成を行う。
- ア 授業内容・技術指導内容・評価の改善に取り組み、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。
- イ 少人数展開の授業や ICT 機器の活用とともに、公開授業や研究授業を積極的に推進し、教員の協働により学校全体の授業力を向上させる。
- ウ 全ての教育活動において、生徒の協働性を育成するとともに、コミュニケーション力、課題発見・解決する力、プレゼンテーション力を育成する取組みを実施する。
- \* 生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく行われている」を向上させ、令和5年度には肯定率85%以上を達成する。(H30:68%、R1:67%、R2:77%)
- \* 生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率80%以上を維持する。(H30:68%、R1:67%、R2:80%)
- エ 各教科・系でキャリア教育を見据えた基礎学力の目標を設定して、基礎学力向上に向けた指導を行う(新)
- (2) 生徒に自信と意欲を持たせるために、実践的技能養成重点校として、製造現場で役立つ国家資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト等への応募や競技会等の出場、企業等との連携などの体験活動に積極的に取り組ませる。
- \* 卒業までに3つ以上の検定・資格を受検させ、その取得・合格をめざす。ジュニアマイスター顕彰受賞者15人以上を維持する。(H30:17人、R1:15人、R2:22人)

## 2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校

- (1) 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づき毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。
- 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底するとともに、学校全体で5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進する。
- \* 遅刻生徒数1,000以下を維持する。(H30:1730件、R1:738件、R2:682件)
- \* 転学、退学生徒数の合計で前年度比20%減をめざす。(H30:45人、R1:32人、R2:19人)
- (2) 人権教育や様々な講演会・研修を推進し、社会人に相応しい人格と態度を養う。
- 発達段階に応じた人権教育や安全指導、薬物乱用防止、マナー向上等の多彩な講演会・研修を実施する。
- \* 生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を向上させ、肯定率80%以上を維持していく。(H30:78%、R1:76%、R2:84%)
- (3) 生徒の自己実現への支援に努める。
- ア 教育相談体制の充実を図り、生活指導部・学年・系の連携による生徒支援と教育相談活動を行う。
- \* 学校教育自己診断の「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定率を75%以上に引き上げ、維持する。(H30:63%、R1:62%、R2:74%)
- イ 三か年を見通した進路指導計画に基づき、キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取り組む。
- \* 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率85%以上を維持する。(H30:78%、R1:79%、R2:90%)
- ウ 生徒の夢や希望を実現するために、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行い進路指導の充実を図る。
- \* 就職率100%を堅持する、公務員や大学進学決定率100%をめざす。離職率調査において、自己実現のための離職を除く3年以内の離職率30%未満を維持する。(H30:33%、R1:51%、R2:21.9%)
- (4) 読書活動を推進し、生徒に読書の大切さを指導する。
- ア 授業での図書館利用を推進する。
- イ 図書館の開館時間を確保し、図書貸出し数を増やす取組みを行う。

## 3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 生徒会活動、部活動の活性化を推進する。
- ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく。
- イ 部活動の活性化に向けた取組みを積極的に推進する。 \* 部活動の加入率50%以上を維持する。(H30:48%、R1:56%、R2:52%)
- (2) 公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。
- \* 保護者向け学校教育自己診断「この学校の学校行事(体育祭・文化祭・授業参観等)に参加したことがある」を向上させ、令和5年度までには肯定率65%以上を達成する。(H30:63%、R1:62%、R2:57%)
- \* 保護者向け学校教育自己診断「学校では、PTA活動は活発である」を向上させ令和5年度までには肯定率70%以上を達成する。(H30:63%、R1:64%、R2:57%)
- \* 保護者向け学校教育自己診断「学校は、教育情報について提供の努力をしている」を向上させ令和5年度までには肯定率80%以上を達成する。(H30:73%、R1:68%、R2:68%)
- (3) 生徒に対しての防災教育を推進し、防災意識を高めるとともに、防災マニュアルの更なる見直しに取り組み、学校の危機対応能力を高める。
- \* 生徒向け学校教育自己診断「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか。知らされている」の肯定率を85%以上に引き上げ、維持する。(H30:74%、R1:74%、R2:84%)
- (4) 各種のイベントに積極的に生徒が関わるとともに、小中学校への出前授業を実施し、学校の魅力発信に取り組む。
- 産業教育フェア、校外でのものづくりフェスタ等と連携したイベント等への生徒の積極的な参画を推進するとともに、教員による小中学校への出前授業を推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、教員、保護者について、GoogleClassroomのアンケート機能を活用して実施。</li> <li>回収率(生徒93%・保護者21%・教員72%)</li> <li>今年度は準備や生徒、保護者、教員に対する周知が十分ではなく回答率は低かったが、「学校に行くのが楽しい」「授業は分かりやすく行われている」「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる。」の回答が多く、日々の過ごし方の大切さを感じさせられた。</li> </ul>	<p>(第1回) 7月12日 コロナ禍のため書面開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新入生の大幅な定員割れは深刻な問題である。</li> <li>新型コロナウイルスの影響で学校経営が大変だと思われるが、先生方の日々の努力が報われることを願いたい。</li> <li>10月、11月に学校行事が多いことと、生徒の精神面のフォローが気になるところである。</li> </ul>

- ・次年度に向けて実施方法や周知、分析についての見直しが必要である。
- ・以下に「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計を過去2年分と比較する。

## 1. 学校へ行くのが楽しい。

	R01	R02	R03
生徒：	61%	82%	81%
保護者：	73%	80%	85%

## 2. 授業は分かりやすく行われている。

	R01	R02	R03
生徒：	67%	77%	86%
保護者：	60%	72%	77%

## 3. 先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる。

	R01	R02	R03
生徒：	67%	80%	86%

## 4. 担任以外にも気軽に相談できる先生がいる。

(保護者：学校は保護者の相談に適切に応じてくれる。)

	R01	R02	R03
生徒：	62%	74%	82%
保護者：	78%	73%	90%
教員：	86%	93%	92%

## 5. 先生の指導は納得できる。

(保護者：学校の生徒指導は共感できる。)

	R01	R02	R03
生徒：	52%	63%	78%
保護者：	71%	70%	86%

## 6. 将来の進路や生き方について考える機会がある。

(教員：生徒一人ひとりが興味・関心、適正に応じて進路選択ができるようにきめ細やかな指導を行っている)

	R01	R02	R03
生徒：	75%	90%	91%
保護者：	85%	89%	93%
教員：	89%	91%	80%

コロナ禍の影響で、企業訪問や応募前企業見学が十分に実施できなかったことから、教員向けの回答が80%となった。

## 7. 先生ははじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。

(教員：いじめ(疑い含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応できる。)

	R01	R02	R03
生徒：	71%	82%	90%
保護者：	74%	78%	90%
教員：	90%	86%	88%

## 8. 学校行事(体育祭・文化祭・修学旅行)は楽しく行えるように工夫されている。

(教員：学校行事が生徒にとって魅力があるものとなるよう、工夫・改善を行っている。)

	R01	R02	R03
生徒：	63%	64%	77%
教員：	71%	62%	57%

## 9. 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。

	R01	R02	R03
生徒：	72%	84%	89%
保護者：	82%	85%	90%

## 10. 学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どうすればよいか知らされている。

	R01	R02	R03
生徒：	74%	84%	79%

## 11. 学校の施設は授業や生活がしやすいように整理整頓されている。

	R01	R02	R03
生徒：	65%	70%	82%
保護者：	70%	75%	81%

## 12. 学校行事に参加したことがある。(保護者)

	R01	R02	R03
保護者：	62%	57%	37%

コロナ禍の影響で、多くの学校行事が実施できなかったことから、保護者向けの回答が37%となった。

## 13. 学校ではPTA活動が活発である。(保護者)

	R01	R02	R03
保護者：	64%	57%	58%

## 14. 学校は教育情報について提供の努力をしている。(保護者)

(教員：教育活動に必要な情報について生徒・保護者への周知に努めている。)

	R01	R02	R03
保護者：	68%	68%	85%
教員：	84%	81%	69%

教員間の情報の共有が十分に図れていなかったことから、教員向けの回答が69%となった。

今後、更に教員間の連携を密に取っていく必要がある。

## 15. 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。(教員)

## (第2回) 10月19日

10月19日(コロナ禍のため規模を縮小して実施)

- ・志願者の定員割れについては、PTAでも話題になっている。志願者確保のための取組みが必要である。学校のHPをもっと魅力のあるものに更新が必要である。
- ・クラブ活動の様子や生徒が活躍している姿を、もっとアピールしていく必要がある。
- ・10月から緊急事態宣言が解除となり、修学旅行をはじめとする学校行事が実施できることとなり良かったと思う。
- ・IT化は時代の趨勢で、それに即した授業が行われており、思考法と技能の取込みがよく考えられているように思う。
- ・建築都市工学系の課題研究としての「VR学校見学の取組み」につきましては、生徒らの専門性を生かした先進的な取組みであり、大変素晴らしい取組みだと思います。
- ・「中学3年生のためのテレビ学校説明会」についても、ご紹介いただきありがとうございます。生徒・職員が協力して制作した学校説明であるところに大きな意味があると思いますが、コロナ禍での特別な取組みで終わることなく、今後も引き続き、そのような機会が確保できれば良いと思います。
- ・進路状況、進路保障に向けた積極的な取組みのご報告を頂きありがとうございます。最終的には進路をどれだけ保障できるかがポイントになると思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

## (第3回) 2月16日(コロナ禍のため規模を縮小して実施)

- ・本校生徒のワクチン接種状況についてどのぐらいの生徒が接種しているかという質問があった。本校からワクチンの接種に関しては任意のため接種人数の調査はしていないという回答を行った。
- ・コロナ禍により授業形態の多様化ができるようになったが、学校は対面授業によって技能等の習得が可能になると思うとの意見が出された。
- ・マナーロンダリングに関する内容を学校でも導入したほうが良いのではという意見があった。どのような教科、科目で実施可能かを含め検討するよう要望があった。
- ・離職率調査について生徒(卒業生)への聞き取り実施をするなど、ミスマッチをできるだけ減らすためにも、キャリア教育の充実を図る方向で検討したほうが良いという意見があった。

<p>R01 R02 R03 教員： 75% 81% 65%</p> <p>教員間のコミュニケーションが円滑に図れていなかったことから、教員向けの回答が69%となった。今後、更に教員間のコミュニケーションを密に取っていく必要がある。</p>	
<p>16. カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。(教員)</p> <p>R01 R02 R03 教員： 90% 79% 71%</p>	
<p>17. 教育相談体制が整備されている。(教員)</p> <p>R01 R02 R03 教員： 82% 81% 84%</p>	
<p>18. 生徒の実態を踏まえ個別の指導内容・指導方法について工夫・改善を行っている。(教員)</p> <p>R01 R02 R03 教員： 74% 81% 84%</p>	
<p>19. 教育活動について教職員で日常的に話し合っている。(教員)</p> <p>R01 R02 R03 教員： 80% 76% 78%</p>	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校	(1) 学力の定着と学びに向かう姿勢の育成 ア キャリアガイダンスをPBL導入科目として取り組み、「自己肯定感の向上」の醸成をめざす。	(1) ア 「キャリアガイダンス」の内容を大幅に見直し、1年をかけて、「多様な専門性を持つ人との結びつき」や「自己肯定感を高める」取り組みを行う等、きめ細やかに学習することで生徒自身の自発性や関心、能動性を引き出し、答えにたどり着くまでのプロセスが大切であるというPBLにつながる考え方を学ばしていく。	(1) ア キャリアガイダンスでのアンケートによる『答えにたどり着くまでのプロセスの大切さ』を理解した』の肯定的意見 80%をめざす。 〔新規〕	(1) ア キャリアガイダンスでのアンケートによる『答えにたどり着くまでのプロセスの大切さ』を理解した』の肯定的意見 88.3%となった。さらなる向上に努めたい。(◎)
	イ 実習・授業内容を改善し、生徒の興味関心を高める。	イ PBLの観点を授業に落とし込み、専門分野の実習等の改善に取り組む。	イ PBLの研究と教科横断型の授業に取り組む 新しい授業の取組みの満足度70%以上を維持する。 〔新規〕	イ PBLの研究と教科横断型の授業に取り組む 新しい授業の取組みの満足度は72.7%となった。(◎) 次年度は、80%をめざしたい。
	ウ 組織的な公開授業及び研究授業。	ウ 授業改善(ほんとうによくわかる授業)の取り組みとして、ICT機器の活用、教科横断型の授業の推進を図るため、授業見学や研究授業などを計画する。 実習の指導方法・評価の改善に組織的な取り組みを行い、生徒の満足度を向上させる。	ウ 研究授業回数12回〔7回〕 授業満足度75%以上を維持 〔76.7%〕	ウ 研究授業回数6回と、臨時休業等(コロナ禍による)も多くあり予定していた回数よりも少なかった。 (一) 授業満足度は86%であった。教科担当教員が、指導内容を工夫、改善して授業を実施。さらなる向上に努めたい。(◎)
	エ コミュニケーション力の育成を図る。	エ プレゼンテーション力育成のために、課題研究発表大会をはじめ授業や実習での発表機会を取り入れる。	エ 課題研究発表大会での肯定率80%以上を維持する。 〔83.6%〕	エ 課題研究発表大会での肯定率は約90%となった。さらなる向上に努めたい。(◎)
	オ 1年生の基礎学力向上及び将来の職業へ繋がる専門を学習する大切さを醸成する取り組みを推進する。	オ 英数国での少人数・TTでの授業を行うとともに、ガイダンス科目では系・専科選択のための情報提供を十分に行い生徒のキャリアアンカーの醸成を図る。 また、基礎学力調査を活用した、生徒の学習意欲の向上にも取り組む。	オ 基礎学力調査による学習に向かう姿勢ができている生徒80%を維持する。〔83.4%〕	オ 基礎学力調査による学習に向かう姿勢ができている生徒77.6%となり、目標達成はきなかった。(△)
	カ 無線LAN整備 ICT授業の促進。	カ 教室の無線LAN整備を図り、ICT授業の促進を図る。	カ 学校教育自己診断(生徒)「ICT機器を活用した授業」平均60%以上〔新規〕	カ 学校教育自己診断(生徒)「ICT機器を活用した授業」の数値は86%。さらなる向上に努めたい。(◎)
	(2) ア 資格・検定等への積極的な挑戦と、その取得・合格をめざした指導を行う。	(2) ア 資格取得、各種検定試験の合格、各種コンテストへの応募や競技会等への参加を積極的に推進していく。	(2) ア 資格・検定の一人当たりの受験率110%以上をめざす。 〔105%〕 コンテスト等参加者150人をめざす。〔97人〕 ジュニアマイスター顕彰受賞者15人以上を維持する。 〔22人〕	(2) ア 資格・検定の一人当たりの受験率112%で目標は達成した。次年度は、115%以上をめざす。(○) 今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により、校外で行われる取組みが中止となり活動できる内容が限定されていたため、コンテスト等の参加者は60人となった。(一) ジュニアマイスター顕彰受賞者21人で目標は達成した。さらなる向上に努めたい。(○)
	イ 外部連携による体験活動の推進	イ 企業等との連携授業や校外での実習・見学・体験活動等を実施する。	イ 実施件数100件以上を維持する。〔100件〕	イ 実施件数90件となり、今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により、予定通り実施できなかった。(一)

府立西野田工科高等学校

<p>2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校</p>	<p>(1)規範意識を醸成する生活指導の取り組み ア 挨拶運動・遅刻防止指導を推進  イ 5Sの推進、校内美化運動の推進  (2)発達段階に応じた人権教育の充実  (3)生活指導部と連携した教育相談体制の充実  (4)計画的な進路指導の推進  (5)読書活動の推進</p>	<p>(1) ア 挨拶・遅刻指導・スマホ等指導、通学時の自転車マナー指導を徹底し、生徒の規範意識を醸成する  イ 全ての教育活動で、ものづくりの基本となる5Sを徹底し、学校環境の改善に取り組む  (2)学年別人権教育の充実を図る ア、学年に応じた人権HRを企画し、生徒に「人権について考える」を意識する授業を実施する。 イ、年間を通して人権を意識するため、定期的にも人権通信(仮称)を作成し、掲示・配付する。  (3)教育相談活動を充実させ、安全安心な学校環境をつくる。SC、SSWとの連携による生活指導體制を構築し、個々の生徒の実態に応じた指導を実践する  (4)就職率100%を堅持するとともに、公務員や大学進学を希望の生徒が100%合格できるよう指導する 離職率調査を実施し、進路指導に活かす  (5)図書館の利用を促し、読書の大切さを指導する ア 授業での図書館利用を推進する  イ 図書館の開館時間を確保し、図書の貸し出し数を増やす取り組みを行う  ウ 生徒の居場所づくりとしての役割を意識し運営する。</p>	<p>(1) ア遅刻数1000件以下を維持する。[682件] 転・退学者15件以下をめざす。[19件] イ定期的な整理・清掃活動の実施。24回[15回] 学校環境の満足度70%以上を維持する。[70.4%]  (2)生徒人権教育の実施回数3回[3回] 取組みに対する肯定率80%以上を維持する。[84%]  (3)学校教育自己診断(生徒) 「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」75%以上をめざす。[74%]  (4)離職率調査を実施し3年後の(自己実現の離職を除く)離職率30%未満を維持する[21.5%] 進路情報を広く生徒に周知する  (5) ア 授業での利用数50回以上を維持する。[59回] イ 生徒向けの本の貸出冊数を10ポイント増加させる。[19冊] ウ 生徒の本貸出利用人数を10ポイント増加させる。[441人]</p>	<p>(1) ア 遅刻総数は、R3:533件で22%減、転・退学者は10名で5名減を達成しているため、引き続き丁寧な指導に取り組みたい。(◎) イ 定期清掃活動等実施回数18回(△) ※5Sを定着させるため継続する。 学校環境の満足度82%(◎) ※消毒用アルコール(自動噴霧付含む)を教室前、校舎出入口などに設置し、また男子トイレが新しくなった。  (2)人権教育実施回数3回 取組みに対する肯定率89%(◎) ※数値達成はしているが、教職員はじめ生徒のさらなる人権意識の向上が必要。  (3)「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の回答82%(◎) ※さらに生徒が相談しやすい環境や雰囲気づくりを行う必要がある。  (4)3年後の離職率は、30.4%であった。(△) ※離職率を下げるためのさらにキャリア教育の充実を図る必要がある。 ※進路だよりの発行(年3回)や掲示物を充実させ、進路情報を広く生徒に周知していく。  (5) ア 授業での利用数60回(○) ※利用が更に進むように授業計画への組み込みの検討が必要。 イ 生徒向けの本の貸出冊数10冊(△) ウ 生徒の本貸出利用人数400人(△) ※今後もさらに居場所としての利用を推進する。</p>
<p>3 安全安心で魅力ある学校</p>	<p>(1)生徒活動の活性化 ア 学校の広報活動に生徒が主体的に関わるようにする イ 部活動が活性化するように学校全体で取り組む  (2)開かれた学校づくり 授業公開を行うなど、PTA活動や学校運営協議会等の充実を推進  (3)防災等訓練等を通して生徒の意識の向上を図る  (4)外部イベントへの積極的な参加と情報発信を行う</p>	<p>(1) ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく イ 部活動の活性化に向けた取り組みを積極的に推進するまた、部活顧問の長時間勤務の解消のために、負担均衡を図り長時間勤務者の減少を図る  (2) ア 年2回の公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る  イ 保護者用Googleアカウントを作成し、Classroomを活用したオンラインによる連絡を推進する(新)  (3)地震、津波などの災害を想定した防災訓練を実施し、生徒の防災に対する意識を高める。教職員の対応マニュアルを見直し、学校の危機対応力を高める  (4)外部イベントに生徒が関わるように指導するとともに、出前授業等により学校の魅力を発信する ア 西淀川ものづくりまつり、大正ものづくりフェスタ等と連携したイベント等へ参加を推進する イ 小・中学校への出前授業等に取り組み、学校の魅力を発信する</p>	<p>(1) ア 体験入学や学校説明会に関わる生徒数80人以上[29人] イ 部活動加入率50%以上を維持する。[52.4%]全教員が部活動顧問に就く体制を整える。  (2) ア 学校教育自己診断(保護者) 「学校の学校行事に参加したことがある」を10ポイント増加[57%] 学校教育自己診断(保護者)「学校では、PTA活動は活発である」を10ポイント増加[57%] イ Googleアカウント登録率70%以上、Classroom登録率70%以上[新規]  (3)学校教育自己診断(生徒) 「地震や火災等への行動について理解している」80%以上を維持する。[84%]  (4) ア 各種イベント等への生徒参加を奨励する。[2回] イ 教員による小中学校への出前授業等の企画を行う。[0回]</p>	<p>(1) ア 中学校訪問や学校説明会等に参加した生徒55人(一) ※今年度は新型コロナウイルス感染症感染防止対策により生徒の参加は控えた。参加した生徒からは自信を得られたと好評であった。 イ 部活加入率65%(◎) ※年度(学年)によって増減があるものの、今後も加入率60%以上を維持する。  (2)「学校の学校行事に参加したことがある」の回答37%(一) 「学校では、PTA活動は活発である」の回答58%(一) ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため行事自体がほとんど中止となったが、オンラインを活用し工夫しながら役員会等の会議を行った。 ※学校から保護者への情報発信を充実させるため、Classroomを活用していった。保護者の登録率は73%(○)  (3)「地震や火災等への行動について理解している」の回答79%(△) ※生徒の意識を高める啓発を継続して行う必要がある。新型コロナウイルス感染症の影響で、集合型での訓練が実施できなかった。次年度は工夫が必要である。  (4) ア 各種イベントについて、今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。(一) イ 教員による小中学校への出前授業等は8回実施した。(◎) ※例年、実施校からの評価は高いので、企画を継続する。</p>